



令和2年3月5日(木) 県議会 2月定例会 本会議 一般質問

1 若者、女性の活躍について

① 県内中学生の県外高校への進学状況はどうか。若者の県外流出が課題であるなか県内高校を選択してもらうような取組みが必要と考えるが、所見を問う。

答 弁(教育長)

平成31年3月の県内中学校卒業者のうちの1.56%となる149人が部活動に魅力を求めて県外高校へ進学、県内転入者は95人。質の高い教育環境の提供、スポーツでの「未来のアスリート発掘事業」など中学生や保護者に向けて県内高校の魅力発信に取り組んでいる。



② 私立高校の授業料一部助成について県として多子世帯への支援拡充も必要ではないか。県外からの進学者も支援の対象としてはどうか、所見を問う。

答 弁(総合政策局長)

国の私立高校授業料実質無償化に合わせ、県では国の無償化対象外世帯や低所得世帯等の支援拡充を行う。東京都等では多子世帯への支援を始めるが学校施設費や財源等、本県とは事情が違う。また県外からの進学者は卒業後、県内に留まる割合が低い。

③ 大学コンソーシアム富山の活動状況はどうか。北陸3県の大学等との連携を推進してはどうかと考えるが、所見を問う。

答 弁(総合政策局長)

大学コンソーシアム富山では特色ある授業科目を提供し履修単位の相互承認による単位互換、高大連携のほか公開講座や合同企業説明会などを開催している。北陸3県での大学コンソーシアムでは単位互換、教材開発、教員研修などで連携を図っている。

④ 東京一極集中の是正のため日本海沿岸地帯振興連盟、知事懇談会等を通じた他県との広域連携を一層強化していく必要があると考えるが、所見を問う。

答 弁(知事)

東京圏への転入超過に歯止めは掛かっていない。一極集中是正に向けて県単独での取り組みも必要だが、全国知事会など今後も様々な広域連携の枠組みや近隣県との連携を通じて国への働きかけや政策の協力を努めていきたい。

⑤ 県内において安心して妊娠、出産、子育てを実現するため、県内外企業に呼び掛けてテレワークなど多様な働き方を支援していくことが必要と考えるが、所見を問う。

答 弁(総合政策局長)

これまでもフレックスタイムやテレワークといった柔軟で多様な働き方の推進、女性の雇用の多い企業誘致などに取り組んでいる。今後も経済団体等と連携して女性の個性と能力を發揮できる環境づくりに努める。



⑥ 本県職員及び県内企業における男性の育児に伴う休暇・休業の取得を促す取組みを推進する必要があると考えるがどうか、取得状況と併せて、所見を問う。

答 弁(知事)

配偶者の出産や子育てのために休暇を取得した社員が多いほど企業子宝率は高い。県庁男性職員の育児休業取得率は86.6%、平均取得日数は5.7日。県内企業の取得率は3.9%。父子手帳作成、セミナーやシンポジウム開催、ベビーシート設置などを進め男性の育児参加拡大に取り組む。

2 文化の発信について

① 第2回大伴家持文学賞と高志の国詩歌賞の申込み状況はどうか。本県の「万葉集ゆかりの地」としてのPR活動についてこれまでの取組みと成果について問う。

答 弁(知事)

前回は上回る文学賞109名、詩歌賞20名の候補者で受賞者選考中。高志の国文学館は過去最高の入館者を記録。中西進氏の講演会開催や観光ツアー誘客、オリジナルグッズ製作などでPR活動、本県への集客強化に取り組んでいる。

② 大伴旅人、家持をテレビ番組や映画、演劇などを通してもっと国内外にPRできると考えるが、所見を問う。

答 弁(生活環境文化部長)

県内外7施設が連携し旅人、家持の魅力を全国に発信している。一昨年は家持を題材とした演劇が披露され、今夏に開催される「とやま世界こども演劇祭」でも上演される。漫画家の里中満智子さんによる漫画制作が進められており、完成時には全国でPRをする。



3 公共交通等について

① JR氷見・城端線のLRT化検討にあたり沿線市以外の市町村にも参画してもらい広域連携で協議を進めるべきと考えるが、所見を問う。

答 弁(観光・交通振興局長)

整備費、維持運営費、街づくりとの整合性など実現可能性を含めて課題が多い。地域住民が生活路線として維持していくために沿線4市が主体となって検討することが基本。県としても検討班を設置し慎重かつ丁寧にJR側と議論していく。



② LRT化に向けた議論はある程度スケジュール感をもって進めるべきであると考え、所見を問う。

答 弁(観光・交通振興局長)

現時点で具体的なスケジュールは持っていない。検討の基礎材料として旅客流動調査、需要予測調査などを実施する予定であり、できるだけ早く纏まるように関係者と呼吸を合わせて進めていきたい。

③ 北陸新幹線開業から5年を迎えるが、開業効果をどのように評価し、効果を持続・深化させていくためにどのように取り組んでいくのか、所見を問う。

答 弁(知事)

開業後、宿泊者数30万人増、外国人観光客倍増のほか企業立地、Uターン率向上、移住者増加などに効果が出現し富山県の知名度向上、地域経済に大きく貢献している。今後は立山黒部や富山湾の世界ブランド化、UIターン促進やサテライトオフィス誘致等に取り組んでいく。また、早期の大阪延伸を実現したい。



④ 新幹線敦賀延伸を見据えた施策に、あれもこれも手を付けるのではなく延伸後の影響を見極めてから必要なモノを吟味するべきと考えるが、所見を問う。

答 弁(総合政策局長)

福井駅、金沢駅は大きく変化しており、延伸にて近隣県との地域間競争の激化が予想される。本県の活性化に向けて県内新幹線3駅の個性を生かしつつ、予定している事業の整備内容をしっかりと検討し、スピード感を持って取り組んでいきたい。

